

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年6月29日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ： オープニング、トランプ外交。G20、ゴーン被告の妻に単独インタビュー 【特集】 G20 で米中は？日韓は？、【特集】 米中貿易摩擦で対応を迫られる企業		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ トランプ外交 ・ G20 ・ 今夜から火曜日にかけて各地で災害級の雨に警戒を ・ ゴーン被告の妻に単独インタビュー ・ 静岡県御前崎市で女性死亡後に同居男女が自殺か ・ 川崎市で遺体遺棄事件 ・ 渋川市で JR 上越線の列車が脱線 ・ 栃木県足利市で中学生の娘への暴行で 50 歳の父親逮捕 ・ 江戸川区の女性視察事件の容疑で夫に逮捕状 ・ 【特集】 G20 で米中は？日韓は？ ・ 【特集】 米中貿易摩擦で対応を迫られる企業 ・ スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング 金平キャスターが「G20 サミットが先程閉幕しました、会議は踊るとい言い方もありましたけれども、国際協調主義に則って共通の目標を掲げる理念よりは、理念よりはやはり自国中心主義の本音に翻弄されたというのが今回の G20 の紛れもない姿だったのではないのでしょうか、特集でお伝えします。」と番組の冒頭でコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 21 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ トランプ外交：結論→特に問題なし スタジオで膳場キャスターが「アメリカのトランプ大統領と中国の習近平国家主席が会談し、貿易交渉を再開することで一致をしました。」とコメントし日下部キャスターが「アメリカは追加関税の発動を当面見送るということですが、根本的な対立は解消されていません、会談が行われた大阪から中継です。」と応えたのを受けて以下に朱記した中継からの VTR が取り上げられた。 "岩田夏弥（報告）「はい、世界経済への悪影響が懸念される中、トランプ氏と習氏は決裂を避けたが状況は 何一つ変わってません。」 トランプ大統領「我々は交渉を続ける、少なくとも当面は関税の引き上げは行わないと約束する。」 岩田夏弥「トランプ氏は先程記者会見でこのように述べた上で、交渉が中断したところから再開する、と語りました。しかしこれまで何度も行われた閣僚級会議が 5 月に頓挫した際、中国の劉鶴副首相は自分がこれ以上でき 		

ることはなく、あとは両首脳で解決するしかない、と話したと報じられていたわけで、今後交渉がうまく進む保証は全くありません、またトランプ氏が訪日前、日米安全保障条約の破棄に言及したという報道に関してはそんな事は考えていないと否定しました。ただ不公平だということを過去半年安倍総理に話してきた、と述べ安保条約に不満を持っていることをこれまで安倍総理に伝えてきたことを明らかにした上で、変えなくてはならないと思っていると強調しました。」

膳場貴子「岩田さん、トランプ大統領はさらに、突然今朝ですね北朝鮮の金正恩党委員長に面会を呼びかけましたね。」

岩田夏弥「そうですね、トランプ氏は明日、ソウルに入る予定なんですけれども、明日、南北の軍事境界線がある非武装地帯を訪れると明らかにした上で金党委員長に面会を呼びかけました。」

"トランプ大統領「私は韓国を訪れるのでもし金党委員長が非武装地帯に来るなら会えるだろう。2分でも構わない。」

ナレ「2月にベトナムで行った首脳会談が物別れに終わってから非核化に向けた協議が全く進んでいないだけに短時間でも面会が実現すれば何らかの変化が生じる可能性もあります、北朝鮮外務省のチェ・ソンヒ第一外務次官は公式な提案は受けていないとしながらも、対話が成し遂げられるなら両国関係の進展に意味のある景気にあんなら、と前向きな談話を発表しています。トランプ氏は先程の会見で会談というより握手かもしれないが金委員長もやりたいと思っていると思う、と述べまして面会の実現に期待感を示しました。会うか会わないかは金氏の判断次第という状況で予測がつかないトランプ流の外交が続いています。」

このトピックに当てられた時間は 183 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ G20 : 結論→特に問題なし

G20 について開場前の橋口記者からの中継が以下に朱記した形で取り上げられていた。

"橋口由侍（報告）「はい。議長を務めた安倍総理は閉幕後の記者会見にで世界経済について取りまとめた首脳宣言の成果を誇りました。」

安倍総理「自由、公正、無差別、開かれた市場、公平な競争条件、こうした自由貿易の基本的原則を今回の G20 では明確に確認することができました。」

橋口「また、安倍総理は自由なデータ流通を行うことを目的とした国際的な交渉の枠組みの創設を提唱し来月にも初会合を開く考えも明らかにしました。環境分野ではプラスチックごみの海洋への流出を 2050 年までにゼロにすることをめざす大阪ブルーオーシャンビジョンの実現に向けて一致したと述べました。」

日下部正樹「安倍総理はですね、米中の橋渡し役、これも目指したわけなんですけれどもこちらの成果はどうだったのでしょうか。」

橋口「米中貿易戦争と形容されるアメリカと中国の対立が先鋭化しないよう心を砕いたのは確かだと思います、橋渡し役という意味では初日に行われたデジタル経済に関するイベントのこのシーンが象徴的でした。デジタル分野でも覇権争いを続ける米中両首脳の間には安倍総理が座りました。この会合には習主席が出席しない可能性が囁かれていましたが安倍総理が直前の首脳会談でも二人に参加を要請したということです。ただ、サミット議長国の役割は世界共通の課題について参加国に議論を促し結束したメッセージを取りまとめることです、自国第一主義を掲げるアメリカに配慮し、今回も反保護主義を謳う文言を首脳宣言に盛り込むことはかないませんでした、日米安保への不満を漏らしたトランプ大統領、来年春の日本訪問まで約束して接近を試みた習主席日本がこの二人の主役の狭間で翻弄されたことは間違いなく、米中二大大国が世界を振り回す姿が改めて浮き彫りにしたとも言えそうです。」

このトピックに当てられた時間は 166 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・ ゴーン被告の妻に単独インタビュー：結論→特に問題なし

特別背任の罪などに問われている日産前会長カルロス・ゴーン被告の妻、キャロルさんが JNN の単独インタビューに応じ、保釈された夫との接触を早期に認めるよう訴えたとのことが以下に朱記した VTR で取り上げられていた。

"ナレ「キャロル夫人は事件後日本のテレビ局のインタビューに初めて応じ、東京地裁がゴーン被告との面会を制限している保釈条件を緩和しなかったと、批判しました。」

キャロル夫人「(裁判所は) また拒否しました。破滅的です、とても残酷で非人間的な引き離し方です。」

インタビュアー「(ゴーン被告の) 金については何も知らなかったのか？」

キャロル夫人「知りませんでした、カネのことは。」 "

ナレ「一方でルノーの資金で行われた疑いがあるベルサイユ宮殿での結婚披露宴や自らが代表を務める会社が購入したクルーザーの費用に日産からの資金が流用された可能性については今後の裁判に関わるため答えられないとしました。」

"キャロル夫人「私は事件とは関係がなく容疑者ではない、夫に寄り添う妻です。会社では働いておらず、日産とルノーとも関係がありません。彼（ゴーン被告）を愛しています、会いたいです、そばにいたいです。」

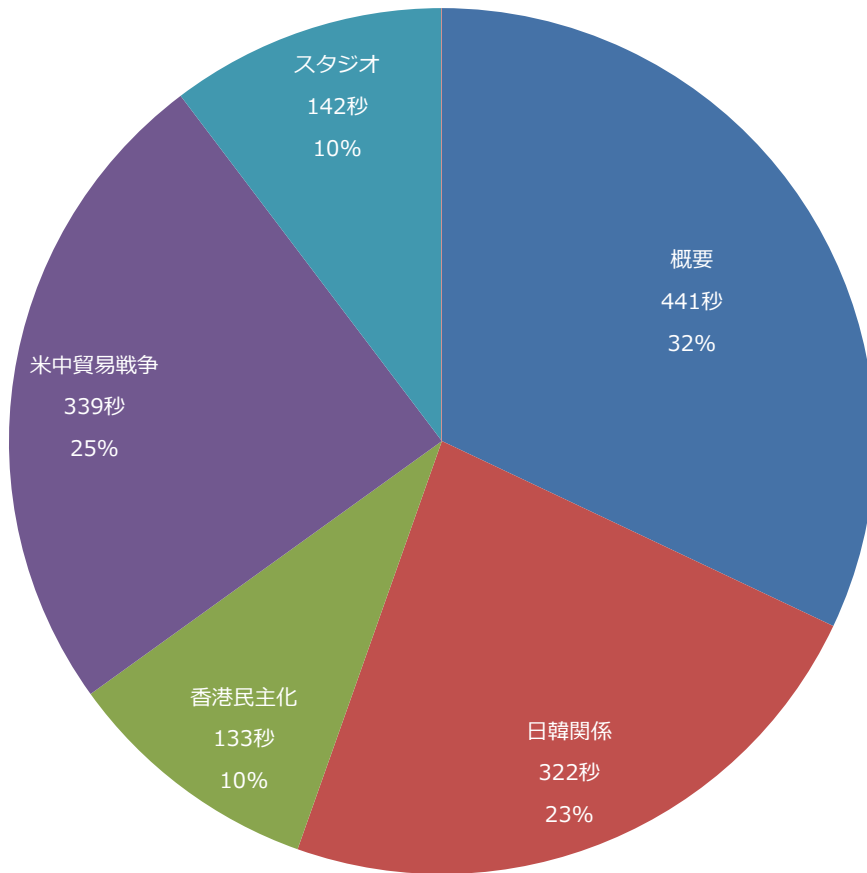
ナレ「キャロル夫人は日本が推定無罪の原則を守り家族が置かれた人権状況を改善すべきだと訴えました。」 "

この特集に当てられた時間は 95 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・【特集】 G20 で米中は？日韓は？：結論→特に問題なし

G20 について取り上げられていた。この特集に当てられた時間は秒で、特集の中では G20 の概要について取り上げた場面、日韓関係に焦点を当てた場面、逃亡犯条例をめぐる香港のデモを取り上げた場面、米中貿易摩擦に取り上げた場面、VTR を受けてスタジオでのやりとりに大別された。

それぞれのポイントへの時間配分は以下の通りであった。



[VTR 1]

膳場「特集は、参加した国の GDP が世界全体の 8 割を占める G20 大阪サミットです。」

金平「えーサミットは先ほど、閉幕しました。注目された米中首脳会談の結果は・・・そして、会議が行われなかった日韓関係の行方はどうなるのでしょうか？」

金平「すごいね。これ。何人がかりでやってるの？これ。」

"ナレ「G20 の舞台となった大阪市内は、今週、全国から集められたおよそ 3 万人の警察官で、厳重な、警戒態勢が敷かれた。」

「学校も休みとなり、ごみも一部収集されないなど、市民の生活には、さまざまな影響が出た。」 "

"喫茶店の人「コーヒーが、うちは配達してもらっているけど、今日は配達なし。で、明日の卵の配達もなし。」

金平「困るじゃないですか。」

喫茶店の人「要するに、配達の人らも、結局、読めなへんからって話。ここに入ってくるのに。どのくらい時間がかかるか。そうそうそう。」 "

デモ隊「NO、NO、G20、NO、NO、G20。」

ナレ「海上の近くには、サミットに反対する人たちのデモも、そうした中・・・」

金平「G20 サミット会場から、600mほど離れた路上ですけども、今、物々しい警戒が、鑑識が今、」

[VTR 2]

ナレ「昨日、G20 サミットの、会場近くの路上に、多くの警察官が集まっていた。」

"金平「ほら、見える見える、見える」

金平「えー尋問を受けたら、そこにまあ何かを置いてですね、走りさったということなんです。」

ナレ「路上にあったのは、火をつけると煙が出る子供向けの花火。30代から40代の男が置いて逃げたという。けが人は無かったが、この捜査員の多さが、現場の緊張感を物語る」

ナレ「おととい、厳戒態勢の中、各国の首脳が、次々と大阪に降り立った。」

金平「あー降りてきたね。降りてきたね。中国の習近平国家主席がですね、今、今屋根付きのタラップをゆっくりと降りてきたのが分かりました。」

ナレ「中国、習近平氏の来日は、2013年の国家主席就任以来、初めてのことだ。」

金平「えー今、笑顔を、今車に乗り込みました。習主席笑みを浮かべてましたですね。世界経済の最大の不安定要因となっている米中貿易摩擦、トランプ大統領との直接対話で、一体どういう合意が形成されるのかというのがですね、最大のG20サミットの見どころですけども、」

ナレ「その、トランプ大統領、多くの人が目見ようと、待ち構えていた。」

金平「えーアメリカのトランプ大統領が宿舎となっている大阪市内のホテルに立った今、到着しました。アメリカ第一主義、アメリカファーストを掲げるトランプ大統領が、この会議でも主役の一人というようになっています。」

ナレ「米中貿易戦争が深刻な影を落とす中、いよいよ始まるトップ会談。世界中の報道機関が、集まるメディアセンターへ向かうと。アメリカで、最も有名な記者の1人がいた。」

"金平「Do you remember me?at the」

ジム・アコスタ記者「Yes,yes good seeyou again .(また会えてうれしいよ)」

ナレ「アメリカ・CNNテレビのジム・アコスタ記者。トランプ大統領の会見でたびたび厳しい質問をぶつけ、拒否されるなどしてきた名物記者だ。」

金平「What is most the hottest issue?from view point of United State?(アメリカ目線では、何が一番の争点?)」

ジム・アコスタ氏(吹替)「中国とどうなるか、トランプ大統領が習近平氏と相違点を解決できるかどうか。貿易戦争で多くの国民が苦しんでいて、先行きに注目しています。」

ナレ「トランプ大統領が不満を漏らしたという日米安全保障条約についても聞いてみた。」

ジム・アコスタ氏(吹替)「私が気になるのは、シンゾーアベがどう思っているか、トランプ大統領に何か言うのかということです。明らかに大統領は、公平な関係だとは思っていません。」

ナレ「そして、開催初日の朝に来日した。ロシアのプーチン大統領を迎え、G20大阪サミットは始まった。」

金平「今集合写真が撮られています。えーアクセスが限られていますので、このインターナショナルプレスクラブのモニターテレビの前にこういう風に人だかりができるという、とてもえー変わった風景が今、展開されています。」

ナレ「今回のG20サミットは、日本が初めて議長国を務め、主要20か国を、含む37の国や国際機関の首脳が集まった。最も注目されるテーマは、米中間で激化する貿易問題だが、プラスチックごみなどの、地球環境問題も話し合われた。また、G20に合わせて、各国首脳同士の2国間の会談も行われている。」

ナレ「安倍総理は、トランプ大統領や、習近平国家主席など、18の国や機関の首脳との会談に臨む。」

ナレ「逆に、安倍総理との、会談が行われないことで注目されたのが、韓国、文在寅大統領だ。安倍総理が議長として出迎えたときも、会話はほとんどなかった。背景にあるのは、平行線が続く、徴用工問題や、慰安婦問題

などだ。日韓関係は今、過去最悪とも言われている。」

日下部「えー大阪の鶴橋に来ています。えーこのあたりはですね、もともと古くから、在日の韓国・朝鮮人の人たちが、大勢済んでいるエリアです。ということで、この商店街も、こちらはえーキャベツですか、こっちもずーっと韓国料理が、並んでますね。」

ナレ「日韓関係が悪化するたび、板挟みになってきたのが、在日韓国人たちだ。」

"日下部「文大統領、韓国から来るでしょ？どう？」

女性「んーあんまり、好きじゃない。住みにくくなりますよね。もう向こうに帰ることもないし、私らはもう、韓国籍やけど、やっぱりずっとここにもう居るつもりでいてるから」"

"日下部「商売に影響はありますか？」

女性「ちょっとあります。うん悪口言うんだって、日本人なのに、韓国の店に行つて応援するのかいってチョーっとそんな話もちらちら。」"

ナレ「焼肉店を営む在日3世の大倉秀俊さんは、やりきれない思いを訴える。」

大倉さん「韓国の大統領として、その行動であったりとか、日本に向けて発信する言葉によって、日本に住んでる在日の方が、それだけ嫌な思いをして、悔しい思いをして、歯がゆい気持ちになるか。」

ナレ「大倉さんは、日韓両国に、歩み寄ってほしいと話す」

大倉山「日本のトップであり、韓国のトップであり、そこが、話し合いをしないことで、この先在日の方の、生活が、良いように変わるのが言ったら、絶対変わらないですよ。やっぱり救いの手を安倍さんに出してほしいし、文大統領には、謝罪の言葉を一言、述べてほしいなど。『早期解決を目指すね』っていう言葉をやっぱり投げて安心させてほしいです。」

ナレ「民団、在日本大韓民国民団のナンバー2、パク・アンスン議長も、首脳会談が行われないことに、落胆している。」

朴安淳議長「せっかくのチャンスですからね、まあ安倍さんにも本当に何十分でもあつてほしかったし、まあ、文在寅大統領にもですね、努力したら、よかったのになあと、一緒に寂しい思いがしますね。」

日下部「過去の政権に比べて、日本に対するこう、重要度っていうのは、軽くなってるんでしょうか？」

朴安淳議長「そうですね、たしかに我々の民団に対しても、日本の政府に対しても、なんかそういう優先順位が遅いのかなって低いつていうんでしょうかね、そんな感じは受けますけどね。」

ナレ「来日した当時、文大統領は、」

金平「文在寅大統領を乗せた車列が、このホテルに到着したところです。これから在日韓国人の人たちとの会合がここで行われるわけですけども、」

ナレ「招待されたのは、およそ400人。文大統領が、就任後、日本で在日韓国人と交流するのは、初めてだ。」

文在寅大統領(字幕)「政府も皆さまがなしてこられたように、いかなる困難にも揺らぐことのない韓日友好協力関係を作り上げていくために努力してまいります。」

ナレ「民団のトップは、早期に日韓関係を改善してほしいと、訴えた。」

呂健二団長(吹替)「今、韓日関係が非常に厳しいです。大統領も大変苦労されていることは、よくわかっています。韓日関係は私たちにとっては死活問題です。」

ナレ「大統領と同じテーブルに着いたコリア NGO センターの郭辰雄(カク・チヌン)代表理事は、」

郭辰雄代表理事「今回の会談で、どうだこうだというお話では無くて、少なくとも、日本というのが、とても重要な国で、開かれた関係として、向き合っていきたいと、いうことは変わらない姿勢なんだろうとは、思いますね。だから歴史を巡って争うのではなくて、歴史を通じてお互いが何を学び合うかということ、きちっと議論

していかないと、いけないと思うんですね。」

ナレ「同じ日の夜、大阪市の中心部には、人だかりができていた。」

日下部「えー難波の繁華街です。えーこちらではですね、香港で今問題になっている逃亡犯条例、これについて、ぜひ G20 の場でも、取り上げてほしい話し合っしてほしいということで、こうやって香港から来た若者たちが、道行く人たちに訴えています。」

女性「自由と、民主と、人権のために、香港を応援してください。」

ナレ「刑事事件の容疑者を中国本土へ引き渡すことを可能にするという逃亡犯条例の改正案。これを巡っては、今月、反対する香港の市民が、200万人以上、あつまり、無期限延期へ追い込んだ。大阪に集まった人たちは、」

香港からの留学生「私たちは、今、香港の事情を日本の皆さんへ伝えたいです。」

香港からの留学生「中国と香港政府に圧力を与えて、その条例を完全に撤回したいです。」

ナレ「集会が開かれてちょうどその時、日中首脳会談が行われた。安倍総理は、1国2制度の元、自由で開かれた香港が繁栄していくことの重要性を指摘した。習主席は中国の立場を説明したという。そして翌朝。」

日下部「今朝の新聞なんですけれども、一面を使って、日本語と英語で、こうあります。『香港人は戦う、守るべきもののために』クラウドファンディングを使って、集めた1億円ちかい寄付を使ってですね、世界各国の今朝の新聞にこうした広告が載っているそうです。」

ナレ「今回の G20 で世界が注目していたのが、米中首脳会談だ。今日、昼前から行われた。GDP 世界第1位と2位の経済大国の貿易戦争が混迷を控えている。」

トランプ大統領（字幕）「アメリカは、中国に力を見せつけている。中国がこんな目に遭ったのは初めてだろう。」

中国外務省耳火爽（こうそう）報道官（字幕）「貿易戦争を中国は戦いたくないが、恐れはしない。もし誰かが、家の前まで攻めてきたら、私たちは必ず最後まで戦う」

ナレ「アメリカは、中国に対し、知的財産権を守ることや、アメリカ企業の技術移転を強要しないことについて、法整備を図るよう要求。さらに去年7月以降、中国との巨額の貿易赤字を改称するため、輸入品に制裁関税をかけ続けている。それに対し、中国も報復を繰り返している。そして、先月、トランプ大統領は突然、追加関税を10%から25%に引き上げると、表明した。その後、双方が関税の引き上げを実施。さらにアメリカは、残りの3000億ドル分にも、最大25%の関税をかける準備を進めてきた。中国からの輸入品、ほぼすべてを高関税の対象とするものだ。」

ナレ「米中貿易摩擦は、なぜここまで泥沼化してしまったのか。中国経済に詳しい日本国際問題研究所の、津上俊哉客員研究員に聞いた」

津上研究員「今の米中の対立ってというのは、戦線が2つ実はあるわけですね、トランプさんはそのうちの貿易に関する問題、中国との交渉をしてきたわけですが、ここに来て中国側から、いやいやファーウェイ問題、中国企業を不公平に扱うのはやめてくれって新しい論点がテーブルの上に乗せてくれっていうことになっている。」

ナレ「アメリカ政府は、安全保障上の脅威があるとして、ファーウェイなどの通信機器や、サービスを市場から排除する動きを強めている。中国が求める中国企業への公平性と、アメリカが求める貿易問題の是正、お互いに譲れない状態と、なっているのだ。」

ナレ「その背景には、中国政権内部の、状況もあるという。」

津上研究員「不平等条約は、許せないとかですね、その中国企業はあまりにも不公平に扱われてるとかってことを怒る保守派の人たちもいるんで、党内の確執ってのはね、相当高まるんだらうなあ」

ナレ「トランプ大統領にとっては、来年の大統領選にも影響しかねないこの問題。今後の展開は。」

膳場「アメリカが第四弾の追加の制裁をもし発動したら、それに対しては、中国はどういった対抗措置を取ってくるんでしょうか？」

津上研究員「双方の輸入の規模が、もうずいぶん違うので、ええまあ中国は早晚、もう弾を撃ち尽くしてしまうと。限界がきてしまうわけですね。ただじゃあ中国の負けは決まっているかっていうと、そこはそうでもなくて、痛みを与えられてもですね、絶対に降参とは言わないっていう能力は中国は相当強い。他方アメリカのほうはですね、株価が下がる失業が増えるみたいなことになる、トランプ大統領に対してはものすごく強い批判が高まってみたいなことになる、本当に結果がどうなるか分からない。」

ナレ「そして、今日午前11時50分ごろ、米中首脳会談は、硬い表情で交わされた握手から始まった。口火をきったのは、習主席だ。」

"習近平国家主席（字幕）「中米は協力すれば、Win-Win 対立をすれば両方とも負け」

「協力は摩擦よりも対話は対抗よりも良い」 "

トランプ大統領(字幕)「少しつまづいたが、私たちはまた近づきつつある。公平な貿易のディールができれば、歴史に残るものとなるでしょう」

ナレ「果たして、会談の結果は・・・」

ナレ「先ほど、トランプ大統領が会見を開いた」

トランプ大統領（字幕）「すばらしい話し合いだった。交渉は続ける中国への追加の関税は当面、課さない」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場「さて米中貿易交渉についての最新情報をまとめてお伝えしますと、トランプ大統領は、まず、第4弾となる300億ドル分の中国製品への追加関税は当面行わないとしました。さらにファーウェイへの事実上禁輸措置については、解除するという事です。禁輸措置については、解除するという事です。」

膳場「えー日中貿易戦争のより一層の激化、300億ドル分のえー中国製品への追加関税は当面、あっ、失礼しました。3000億ドル分の中国製品への追加関税は当面、行わない、そして、ファーウェイへの事実上の禁輸措置は解除するという事です。」

膳場「そして、米中貿易戦争はより一層の激化、決裂は避けられたということですね。はい、えーっと日下部さんが取材されてましたけれども、」

日下部「えー取材したんですけれども、私もまた香港のことを話ささせていただくんですけれども、これ昨日の新聞ですよ。G20で、ぜひこの香港の問題を取り上げてほしいと、訴えたんですけれども、これは香港の若者たちが、クラウドファンディング。これを呼び掛けて、ですね、数時間でですね、1億円近い、寄付が集まったと。それを使ってですね、この日本の新聞だけじゃなくてですね、ニューヨークタイムズですとか、ロンドン・ガーディアンなど、世界中の新聞の一面にこういった広告を出してるんです。これを見て、昨日の朝ですけども、率直に香港の若者すごいなと思いましたね。やっぱり雨傘運動の失敗にいろんなことを学んだということを感じました。一方で中国の方ですけれども、外国勢力の力にすがったという一蹴してしまうんでしょうね。」

金平「あの皮肉なことなんですけど、こういう国際会議で今、バイのね会談というのが、ものすごくおおきな比重を占めることになって、米中もですけども、日中ですね、先ほどのあの、トランプ大統領の記者会見って面白くてね、特にあの、日米安保条約。についてですね、やっぱり不平等だと、変えなきゃいけないって言うんですよ。I had changed てあれすっごく大きくてですね、なんであの日米首脳会談の時にですね、安倍さんがその真意をたださなかったのか、この辺りがとっても不可解というか、情けないとおもいますね。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】米中貿易摩擦で対応を迫られる企業：結論→特に問題なし

米中貿易摩擦で対応を迫られる中国や日本の企業が VTR で取り上げられていた。

[VTR 1]

ナレ「福島県、郡山市。東京ドームおよそ 2 個分の敷地に建つ工場。ここでは、・・・」

ナレ「カーナビやカーオーディオなど、車載機器を年間 270 万台近く、生産している。」

クラリオンマニュファクチャリングアンドサービス 鈴木庄平社長「えーとこのフロアがですね、電子部品を実装している生産工程になります。」

ナレ「小さな電子部品を寸分の狂いもなく、基板に装着していく。この工場では、カーナビなどに搭載する基盤を製造し、製品の組み立てを行っている。自動化が進み、作業工程は、ほとんどが機会によるものだ。」

"記者「なんですか？」

社長「この装置は児童加湿器になります。えーと湿度が 45%以下ですと、静電気関係で、いろいろ不具合がでます。自動的に 45%以上を確保するために、こういった定期的に霧を噴き出してます。」

ナレ「クラリオンは中国やメキシコなどに、生産拠点を持っている。中国、東莞市の工場は、生産コストが低いことから、全製品の半数近くを作っていて、アメリカなど、世界各国に輸出していた。しかし、アメリカと中国による貿易摩擦で、主力製品であるカーナビが去年 7 月、カーオーディオがその 2 か月後に、アメリカの関税引き上げの対象となった。」

クラリオン生産企画部佐藤弘之部長「弊社の場合、かなり、あの米国に中国で生産したものを納品してますんで、かなりやはり、一番第一弾で、いきなり 25%という数字がありましたので、当然収益にもかなり大きなインパクトを与えるということで、まあ当然驚きといいますか、ショックを受けたというのは、ありますね。」

ナレ「そこで、中国で製造していたアメリカ向けの製品を昨年末から、日本で作っている。」

佐藤氏「えーこちらのラインがですね、えーと中国から移管した生産ラインになります。昨年の 12 月にですね、えーこちらのラインを設置するということですね、まずスペースをあけまして、新たにこちらのラインを新設しております。」

ナレ「災害時のリスクを考え、数年前から生産拠点の中国への集中を見直していたが、米中貿易摩擦の影響で、移転を前倒した。生産ラインを中国から日本に移したことで、関税を回避することはできたが、長期化のリスクもあるという。」

佐藤氏「設備投資をされても、なるべく、一か所で作りたいとはあるんですね、ただし、これがやっぱり長期化するとなると、複数拠点で、設備投資をして、やらなければいけなくなることには、なりますので、設備投資という面では、少し負荷が増えるかなというふうには思います。ただいづれにしても、これもやはりグローバルな商売をする以上は、仕方がないリスクでありますので、」

ナレ「米中貿易摩擦の影響で、生産拠点を中国から別の国に移す、日本企業が増えている。事務機器大手のリコーは、アメリカ向けの複合機の生産をタイの工場へ移すことを決めた。またシャープも、アメリカ向けのノートパソコンの生産をベトナムか、台湾の工場へ移すことを検討中だ。」

ナレ「そして、日本企業だけでなく、中国企業も、生産拠点の移転を迫られている。」

[VTR 2]

ナレ「米中貿易摩擦の影響で、中国企業が生産拠点を中国国外も加速している。中国の工業都市東莞にある皮革工場。年間の売上額は 1200 万ドル。従業員 8000 人が、かばんや靴を製造し、欧米に向けて輸出している。」

"記者（吹替）「どの国に向けて、輸出されていますか？」

男性「アメリカが多いです。」

記者（吹替）「貿易摩擦の影響は？」

男性（吹替）「ありません。アメリカだけに頼っているわけではないので。」

ナレ「従業員はこう話すが、会社を率いる経営陣は、アメリカが、中国製品に課す追加関税への早急な対応を迫られていた。」

ナレ「この会社のショウ社長が、中国を離れ、飛行機で降り立ったのは、ベトナムのホーチミン市だ。」

皮革製造企業 ショウ・レイ社長（吹替）「4回、ベトナムに来て、20近くの工場を見て、今の工場を見つけました。いい工場が見つかって、すぐ決めないと別の人が買うとせかされます。更地だったところも、次来たときにもう工場が建っているんです。」

ナレ「中国にある靴の製造ラインも、ベトナムに移すため、工場の視察に訪れたのだ。」

ショウ社長（吹替）「ベトナムは理想的な場所ではありません。人件費と土地代はすでに10年前の中国の水準まで上がっています。貿易戦争が原因で、もうじっくり視察・計画を立てる時間がありません。現実問題として、今年行動しなければ、クライアントがいなくなってしまう。」

ナレ「今年、はじめから、物件を探し始めたが、米中貿易摩擦の激化を受け、急遽4500平方メートルの工場を月9000ドルで借りることを決めた。」

ショウ社長（吹替）「生産ラインは4本です。1400人が働く予定です。明日からケーブルを敷設したり、防火対策が足りない場所を補強したりします。」

ナレ「来月から、現地で採用する従業員の訓練をはじめ、8月には、このうち、ベトナムで、生産を開始する予定だという。」

工場長（吹替）「アメリカの全ての取引先が、今年中に必ず、中国で製造しているラインの3分の2を、東南アジアに移すよう、求めています。今回、アメリカの関税引き上げリストには、靴・洋服・バッグ・紡績がすべて入っています。これらの業界は、生産を中国の外に移さざるを得ません。」

ナレ「中国から、製造ラインをベトナムに移す企業が急増している。こう話すのは、中国人のベトナム投資の支援をしてきたソウ氏だ。」

ベトナム中国投資センター宋傑文氏（吹替）「貿易摩擦が突然始まったので、多くの中国企業は単独ではなく、同じ問題を抱えたグループ・集団でやってきて、生産拠点の移転先を探しています。」

ナレ「外資企業による、今年4月以降のベトナムへの投資額は、去年の同じ時期の86%増となっているという。なぜベトナムが人気なのか。」

宋氏（吹替）「まず、政治的に安定していること。2つ目にある程度のインフラがあること。日常的に停電が起きるはいけませんし、交通網も必要です。3つ目は、賃金が比較的安く、多くの労働者を確保できることです。」

ナレ「ショウ社長にとって、賃金が上がっているベトナムは、必ずしもベストの投資先ではなかった。だが、製造が、難しい靴については、労働者の技術力は一定レベル以上にあるベトナムを、選ばざるを得なかったという。」

ナレ「一方、縫製が比較的簡単な、カバンの製造ラインについては、ベトナムよりはるかに賃金や、土地代が安い、ミャンマーに移転させる計画を立てたという。ショウ社長は、ベトナムの視察を終え、その足でミャンマーのヤンゴンを訪れた。」

ショウ社長（吹替）「やることはたくさんあります。工場内部を、詳細に確認したうえで、電気ケーブル、生産ラインの設置、従業員の募集などをします。」

ナレ「ミャンマーでは、土地を購入し、工場を一から建設する。当初は、経費として、800万ドルを見込んでいたが、出費が重なり、1200万ドルを超える見通しだという。」

ナレ「翌朝、工場の建設が進む予定地を訪れた。」

"ショウ社長（吹替）「ここは、蚊や虫がとても多いです。網戸がありません。」

ショウ社長（吹替）「網戸は必要です。デング熱とかもありますから。」 "

ナレ「文化や、習慣の違いが、建設現場で働く労働者の安全管理を難しくしているという。ここでは、作業靴をはく人がほとんどいない。」

"ショウ社長（吹替）「はだしになっている人や、草履をはいている人たちは安全ですかね。」

作業員（吹替）「ヘルメットもすぐ外してしまうんです。」 "

ナレ「作業員の雇用は下請け企業に任せている。作業員とその家族が、一緒に雇われていて、報酬は、男性が1日400円。女性が350円。洗濯や食事の準備は、女性たちの仕事だ。」

"ナレ「ショウ社長が実際にレンガを運搬してみたが、」

従業員（字幕）「落ちないように」 "

ナレ「なれていないと、成人男性でも、厳しい作業だという。事務所代わりに借り上げた別荘で行われた会議。電話で、部下に問題点を指摘していく。」

ショウ社長（吹替）「停電がひどいよ。毎日何時間も電気が止まる。昼は料理ができないし、夜は眠れない。」

ナレ「なれない環境での、挑戦。支えになっているのが、ミャンマーでビジネスをする中国人の経営者仲間の存在だ。」

"ショウ社長（字幕）「一緒にやりましょう。」

中国人経営者（字幕）「頑張りましょう」

中国人経営者（字幕）「中国は必ず勝てる。」 "

ナレ「先の見えない不安を口にする人も」

中国人経営者（吹替）「中国とアメリカの貿易戦争の影響は、両国に出ています。今後のことはまだわかりません。」

ナレ「集まった経営者たちは、限られた期限で、工場の移転を迫られている人も多い。」

"ショウ社長（吹替）「故郷を離れて、ここにきたのは、お互い足を引っ張るためではありません。一緒に稼ぐためです。」

「ミャンマーに工場を建設するには、ハードルがあります。それを超えないといけません。」 "

ナレ「米中貿易摩擦の影響で移転を決断したショウ社長だが、今回のアメリカの対応について、こう話す。」

ショウ社長（吹替）「グローバル化した世界で、人の移動が自由になり、貿易も自由にできるようになると望んでいた時に、中国とアメリカの貿易戦争が起きたのは、青天の霹靂でした。国を自由に行き来することや、自由貿易を支持する声の方が、大きいです。一つの国の大統領や、政権が決めることでは無いと思います。」

ナレ「ミャンマーに進出する中国企業。一方で、日本企業も動いている。」

ナレ「ミャンマーのヤンゴンで開発が進む、工業団地。5年前には、水道も電気もない更地だったが、今50社以上の日系企業が、工場を構えている。」

ナレ「この団地の開発と運営を手掛ける住友商事。中国から生産拠点を移したいという企業からの問い合わせがかなり増えていると話す。」

住友商事 物流インフラ事業本部 福田康本部長「東南アジアを中心にやはり、生産拠点を、移そうという動きは、元々、この米中の貿易摩擦が始まる前から、ございましたけれども、これがやはり今回の貿易摩擦の影響で一段とこれが加速していると、まあこういうふう到我々は、見ております。」

福田氏「今一番多いのは、やはり、米国向けの自動車の部品関係ですね。部品を製造されておられる企業、まあこちらが今のところ、問い合わせをいただいている数、検討されている数ということでは多いと思います。」

ナレ「東南アジアを中心に、5か国で展開する工業団地のうち、特に、ベトナムとミャンマーへの移転を検討する企業が多いという。ベトナムでは、3か所あるエリアのうち、2つがほぼ完売状態だ。今後の需要にこたえるため、先月末には、新たにバングラデシュで工業団地を開発する合弁契約を現地の政府機関と、結んだばかりだ。」
ナレ「一方で、世界経済の冷え込みを心配する声もあるという。」

福田氏「やはりこの、米中の貿易摩擦によって、全体的にやはりその景況感というところで、皆さん非常に懸念点があって、新たにやはり、投資をして、東南アジアに進出しようという企業が、少し、もう少し慎重に考えたことがいかなった。まあ非常に皆さん深刻な問題として、とらえられていると思います。」

ナレ「東南アジアへの生産拠点の移転が、相次ぐ中、現地の人材を育てていこうと動く日本企業がある。長野県のシャツメーカー、フレックスジャパンは、年間の製造数、およそ800万枚、そのほとんどを海外の工場で製造し、日本で販売している。」

男性「まあみでの通り、中国、それからベトナム、いろいろございます。これがミャンマー」

ナレ「2000年代、はじめ、生産の7割を担っていたのは、中国の工場だったが、中国の給与水準が上がったため、徐々に東南アジアに軸足を移してきた。現在最も生産量が多いのは、ミャンマーのヤンゴンにある自社工場だ。」

フレックスジャパン矢島隆生社長「縫製現場ってのは、労働集約型ですので、やはりあの、人件費の安いところ安いところに移動していかなければいけないっていう渡り鳥みたいなところがございまして、人の取り合いには、必ずなります。でそういうところほど、いろんな企業が出てきますから、そういうところになって、そういう地域の人件費の上昇率というのは、発展した国に比べると、高くなりますね。」

ナレ「既製品を製造するミャンマー工場の従業員は、およそ900人。賃金は、この8年間で、12倍以上になったという。それでも中国と比べると、1人あたりの人件費は3分の1程度だ。今後、ミャンマーに移転する企業が増えれば、人件費が上がり、コスト競争や、人材確保がさらにきびしくなるのではと考えている。そのうえで、」

矢島社長「大量生産品じゃなくて、細かいものを、いろいろ作らなくちゃいけなくなっていますから、縫製業といえども熟練度というのは、非常に必要ですし、それから工場全体を回すということになれば、それなりのレベルがないと、とても回しきれない。」

ナレ「そこで、この会社が力を入れているのが、海外の工場に日本の技術を伝えていくことだ。」

ナレ「オーダーメイドのシャツやジャケットを製造する日本の本社工場。」

記者「特に技能が必要なパーツってどこですか？」

小山幹人工場長「襟でしょうかね。やはり」

記者「襟？どこですか？」

小山氏「今ここでやっていますが、このシャツの顔って言われるのは、襟なんですね。一番とんがった部分。左右見てもらえば、同じ青い部分も出てますよね。これが、片っぽ緑で片っぽ青だと、あんまりきれいではない。」

ナレ「この道、40年以上になるという、従業員。一つ一つ、異なる柄や素材に合わせて、手際よく糸を変えていく。こうした熟練の職人たちに交じって働いているのが、技能実習生として呼び寄せたミャンマー工場の従業員たちだ。将来、現地の技術指導者として活躍してもらうため、縫製技術を磨いている。」

キンザー・ザーカインさん「ミャンマー人の仕事のやり方と、日本人の仕事のやり方は全然違う。」

ナレ「オーダーメイド品など、付加価値の高い製品を海外生産できるようにすることで、競争力を高めていく狙いがある。」

小山工場長「今4期生まで、数えています。ええもう60人と、いう人数になってきますので、そうしますと、

それだけの人数がですね、全員ミャンマーに戻って、仕事をしてくれば、日本と変わらないような、オーダーシャツが作れると確信しております。」

ナレ「実習生に最近のミャンマーの変化を聞いてみた。」

キンザーさん（字幕）「生活は楽になりました。工場が増えたとし、雇用も増えました。」

ジン・マー・ウインさん「私は、お給料日、いっぱいもらったの、会社を好きです。」

記者「アメリカだとか、中国などのいろんな企業が入っている中で、お給料、もし高かったら、」

ジンさん（字幕）「どこの会社でも、自分に都合が良ければやります。」

記者「せっかく育てた人材が引き抜きにあたりだとか、そういう心配だったりしませんか？」

小山工場長「長く、いてほしいのは希望としてはありますけれども、いろんな縫製工場がですね、近隣があることは我々も、存じております。でそういった中で、韓国系ですとか、中国系って会社もあります。そういった中で、やはりあの、あそこは日系だから、いいよねっていうような、そういうあの、評判になるような工場になっていければなあと思います。あの工場に勤める日本に行けるチャンスがあるっていうのがですね、それが、現地の工場では非常にあのい人集めには、貢献できてるんじゃないのかと、思います。」

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】G20 で米中は？日韓は？

先週の特集では香港のデモが特集されており、そこでは中国の異質さが見え隠れしており、視聴者に中国は他の先進諸国が共有しているような自由主義や民主主義、法の支配という基本的な価値観を持ち合わせていないのでは、ということを示唆するものであった。

しかし、米中貿易摩擦を取り上げる際は相変わらず貿易戦争や覇権争いといった言葉で片付けられており、今回もそうであった。しかし、例えば日米貿易摩擦というのは運用に違いはあれど建前として自由主義・民主主義・法の支配を共有する同質な国同士での貿易上の利害対立であり、いわば「コップの中の争い」といっても差し支えないものであるが、米中はどうもそうした「コップの中の争い」で片付けられそうな話ではなく、冷戦のように社会体制と社会体制の対立のようにも見られるが、特集での取り上げ方もスタジオでの相変わらず単なる貿易戦争としての取り上げ方であったが、まさか金平キャスターは中国がアメリカや日本、欧米と同じようないわゆる「西側自由主義陣営」の国と同じように自由主義・民主主義・法の支配という価値観を共有していると信じているのだろうか。

また、スタジオでは金平キャスターが「あの皮肉なことなんですけどね、こういう国際会議で今、バイのね会谈というのが、ものすごくおおきな比重を占めることになって、米中もですけどね、日中ですけどね、先ほどのあの、トランプ大統領の記者会見って面白くてね、特にあの、日米安保条約。についてですね、やっぱり不平等だと、変えなきゃいけないって言ってるんですよ。I had changed てあれすごく大きくてですね、なんであの日米首脳会谈の時にですね、安倍さんがその真意をたださなかったのか、この辺りがとっても不可解というか、情けないとおもいますね。」とも述べていたが、「真意をただす」というのはどういうことなのだろうか。

もしかしたら金平キャスターは日米安保条約が平等なもの、あるいは日本にとって不利なものと考えているのかもしれないが、日本の防衛がアメリカには義務付けられているのに対して、アメリカの防衛が日本には義務付けられていない、という点においてはアメリカ側に不利な要素もある。また、安倍総理も講演などではそうした

日米安保条約における防衛の担い手という観点から、片務的なものであるという認識を持っていることをうかがわせている。

ここで、仮に安倍総理がトランプ大統領の真意をただし、また日米安保条約の片務性を解消すべく再軍備へと舵を切るならば、金平キャスターはそれはそれで反対するのだろう。そう考えると、金平キャスターが「とても不可解というか、情けない」と評した安倍総理の対応、というのは実は金平キャスターのような政策選好を持つ人間にとってはかなりベターなシナリオだったのではないだろうか。そのように考えると金平キャスターの発言こそ不可解なものに思えてならなかった。